

評価対象年度	平成 29 年度
1次評価日（課長等）	30年 10月 1日
2次評価日（部長等）	30年 10月 1日

施策評価表

1 施策の概要

施策名	都市緑化の推進	コード	15-2
この施策の主な内容（細施策）	(1) 都市の緑の創出と保全 (2) 協働による緑化推進		
第4次総合計画におけるこの施策の目的	都市の緑は生活に憩いと安らぎを与えてくれるなど、良好な都市環境を保つ上で重要であり、公共施設や民有地の緑化を市民と協働により進める。		
担当部課	部 建設水道部	課等 土木課	作成者 古川 幸男

●施策の実施内容 (D0)

2 施策指標の達成状況

* 第4次総合計画における目標指標の達成状況（最終年度：30年度）

施策指標名	単位	27年度	28年度	29年度			30年度	31年度
		実績値	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値
① 緑地面積	m ²	10,424	10,424	10,624	10,424	98.1%	10,724	
指標説明	第4次総合計画後期基本計画より、団地内整備、工業団地などの整備計画に併せた民地等の緑地面積							
②						-		
指標説明								
③						-		
指標説明								

3 施策全体にかかる合計コストの推移

* 項目6より「直接事業費」「人件費」の合計を自動表示

単位：千円

	27年度	28年度	29年度	30年度（予算）
直接事業費	6,558	5,771	5,328	5,298
人件費	3,200	3,200	3,200	3,200
合計コスト	9,758	8,971	8,528	8,498

●施策の評価 (CHECK)

4 施策の現状評価

* 29年度に施策の目的がどこまで達成できたか、施策の進行状況に関する順調／不調の判断

市内の街路樹やポケットパーク等の剪定や消毒など樹木の維持管理については、経費節減を図りながら適正に実施された。
街角緑化や民有地等の緑化を実施することで、街中の緑化を推進することができて街中の景観の向上が図れた。

* 岡谷市の現状のうち、この施策にとって強み／弱みとなる要因

岡谷市の強み	街路樹の除草などを個人や地域で取り組むなど、緑化に関心のある市民は多い。
岡谷市の弱み	まちづくりや除草ボランティア等への市民参加は多いが、市民全体としての緑化意識の熟度としては、まだ十分とは言えない。

5 今後の外部環境の変化

* 30年度以降に予測される社会・経済などの環境変化のうち、この施策に具体的に影響する要因

有利に働くもの	一部地域や商業会で、自主的な街路樹管理が行われ始めた。
不利に働くもの	財政事情の悪化により、維持管理費に制約がある。高齢化により事業への参加者が減少する。

●改善の内容 (ACTION) / 次年度の計画 (PLAN)

6 平成31年度 施策を構成する事務事業の方向性

●基本的な考え方

* 優先して実施する分野＝優先度がA・Bの事業：拡大する事業や新規事業の内容、優先的に実施する理由
 * 見直しを行う分野＝優先度がC・Dの事業：見直しの内容、見直しや廃止をする理由

優先して実施する分野	行政や民間だけでは十分な管理ができないことから、地域住民の方々との協働が不可欠であり、街路樹管理への取り組みを地域等へ働きかけを進める。 また、緑化意識のより一層の高揚を図るため、若年層も含め啓発に努めていく。
見直しを行う分野	街路樹の樹種や設置頻度を含め、維持管理の面からの適正配置を検討する必要がある。

●31年度の優先度

* 方向性が「継続」の事業についてA～Cを、「新規事業」の事業についてAをランク付け。方向性が廃止、完了、統合となっている場合は「-」を付する。 直接事業費・人件費の単位：千円

No	新規事業	様式	実施義務	事務事業名	成果指標		直接事業費			人件費			妥当性	方向性	優先度
					指標名	単位	27年度	27年度	27年度						
							28年度	28年度	28年度						
							29年度	29年度	29年度						
							30年度	30年度	30年度						
1		内部	あり	緑化推進事業	-	-	6,558	3,200	-	継続して実施	B：現状維持				
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															